

第5回 仙台Iソントクラブ 東北大学大学院
女子学生海外渡航支援事業 報告書

平成 28 年 9 月 5 日 記入

所属部局名：工学研究科

学 年：博士課程前期 1 年

氏 名：的場萌子

1. 渡航先

アメリカ合衆国，ハワイ州，ホノルル

2. 参加国際学会等の名称

CIVIL ENGINEERING CONFERENCE IN THE ASIAN REGION 7
(第7回アジア土木技術国際会議)

3. 開催期間

平成 28 年 8 月 30 日 ～平成 28 年 9 月 2 日 (4 日間)

4. 旅行期間

平成 28 年 8 月 29 日 ～平成 28 年 9 月 4 日 (5 泊 7 日)

5. 発表演題

Dynamic Buckling Behavior of Circular Tube Piles on Centrifuge Tests (遠心载荷実験による中空円形断面杭の動座屈崩壊挙動)

6. 参加した国際学会等の状況並びに感想

本学会は、米国、日本等の環太平洋地域をはじめとする各国の土木学会及び建築学会の研究者が集まり、橋梁・港湾技術に関する構造力学や地盤工学の分野はもちろんのこと、環境マネジメントや都市システムに関する各国最先端の研究成果の情報を世界へ発信する場でありました。私はポスターセッションにおいて、建築構造物地下における鋼管杭の動的曲げ座屈挙動を遠心载荷実験によって示し、さらに杭座屈時の耐力を現行の日本の設計指針で評価できることを発表しました。開催地がハワイということもあり、参加者の中には日本の研究者も多く見かけましたが、米国や中東アジアの研究者の方も私の研究発表に興味を持って来て下さり、私の拙い英語にも関わらず熱心に聞き、質問して内容を理解しようと努めて下さる姿に感激しました。しかし、

より深く研究成果の内容をお話ししようとするほど、自分の英語力の拙さを痛感し、十分な説明をすることができなかつた折には悔しい思いが残りました。そうした中でも、どう話してよいか言葉が思い浮かばず説明に焦ってしまった私に対して、「大丈夫です。ゆっくり話してください。」と温かく接し、最後まで丁寧に、根気強く聞いて下さる方もいらっしゃいました。この体験は、私自身に英語力向上を決意させるのと同時に、ここでは一学生としてではなく、一人の研究者として、研究成果を説明し切らなければならないという責任を感じさせる大変貴重な機会となりました。

本学会に参加し、発表者として海外の研究者と実際に話をすることで、今までぼんやりとしていた今後の研究者としての自分自身の姿を、より現実的なものとして見ることができるようになったと思っています。今後は研究だけでなく、それを発信し、十分にディスカッションすることのできる能力を高めていきたいと考えています。

7. 本事業に対する要望等

貴事業により、博士課程前期1年という段階で、海外での国際学会に参加させて頂いたことは、今後の自身の課題を明確に示す大変貴重な機会となりました。国際化が進み、英語でのコミュニケーションが必要不可欠となりつつあるとはいえ、苦手意識から交流を避けがちな私ではありましたが、今回実際に海外の国際学会へ参加したという経験から、今の自分にもできること、あるいはもっと努力を必要とすることをそれぞれ確認でき、今後の国際学会への参加あるいは留学を、以前よりも現実的に、そして意欲的に捉えられるようになりました。

これからも貴事業が継続し、多くの学生が海外渡航して、現地で研鑽を積むチャンスを得られますことを心から願っております。この度は本当にありがとうございました。

※ この報告書は、本事業の出資団体である「仙台Iソソクラブ」への事業成果報告として提出します。

※ この報告書は、本学男女共同参画委員会ホームページに掲載します。